

令和6年3月26日

お知らせ

岡山県古代吉備文化財センター	
担当者	主幹 和田 剛 主事 山口 香織
電話番号	086-293-3211

新たな調査で魅力発見！遺跡紹介パンフレットを刊行しました

岡山県古代吉備文化財センターでは、このたび2冊のパンフレットを刊行しました。1冊は玉野市八浜町周辺にある戦国時代の城跡、もう1冊は津山市南部の佐良山地区にある遺跡を紹介しています。いずれも近年の調査成果を盛り込んでおり、遺跡の新たな魅力を感じていただけます。

身近な遺跡に親しむきっかけとして、多くの方に手に取っていただきたいので、お知らせします。

記

- 名称 ①岡山の戦国争乱と城 第1巻「八浜の戦い」と城
②美作・佐良山の遺跡
- 体裁 A4判、カラー8頁（2冊とも）
- 部数 ①5,000部 ②3,000部
- 内容 ①戦国争乱史と県内の城館の関わりを紹介するシリーズの第1巻。児島で繰り広げられた宇喜多氏と毛利氏の激戦において、常山城跡や両見山城跡など周辺の城がどのように関わっていたのか、城の図解や見どころとともに解説します。今も山中にひっそりと残る城跡から壮大な戦国史を感じていただける1冊です。
②昨年度刊行した津山市佐良山地区の遺跡紹介パンフレット「美作・佐良山の古墳」の続編。今回は古墳以外の遺跡にスポットをあて、縄文時代から江戸時代までの資料を紹介しています。暮らしに密接に関わる住居跡や窯跡、さまざまな道具などから、歴史の中での人々の息づかいを感じていただける1冊です。
- 入手方法 岡山県古代吉備文化財センターに直接来所（無料配布）のほか、県内の埋蔵文化財施設でも配布（配布場所の詳細は当センターへ問合せ）
郵送（送料が必要）については、当センターへ問合せ
※当センターホームページからも閲覧可能
<https://www.pref.okayama.jp/site/kodai/>
- 問合せ先 岡山県古代吉備文化財センター TEL：086-293-3211

岡山の戦国争乱と城 第1巻

「八浜の戦い」と城

はちま



宇喜多氏と毛利氏の激戦の舞台！

「八浜の戦い」は天正10（1582）年2月21日、備前國の宇喜多氏と發着藩の毛利氏が、備前國尾道郡の八浜（現在の工野市八浜町付近）を舞台に激突した戦い。当時、宇喜多氏は天正7（1579）年から毛利氏と交戦を続けていて、優勢に苦しんでいた。

宇喜多氏は天正10年正月、児島郡東部の小串城（岡山市西區小串）の城主であった高島氏を味方にもつて、これを討伐した。これを好機とみた宇喜多氏は2月、児島へ進軍し、毛利方の拠点であった常山城（玉野市宇喜多はか）の真に位置する、安原（安原山）城（玉野市八浜町はか）を目指した。しかし、そこには毛利氏の一隊である藤吉高松が先に入城しており、両軍は同月21日に安原城と八浜の中間地点にあたる大崎（現在の玉野市八浜町大崎付近）の地で衝突した。宇喜多氏は激戦の

なか、大崎の大崎（身取）が討ち死にするなど、大敗した。宇喜多氏は軍勢をまとめた八浜（常山城）城に退城し、毛利方は安原城を包囲した。しかし、宇喜多氏と尾道関係にあった備前守の部将、羽柴秀吉（後の豊臣秀吉）が3月17日、播磨国の船橋城から出陣する動きを見せたため、毛利方は備前守の援軍のため撤退した。こうして戦を逃れた宇喜多氏は4月4日に岡山城で毛利方を迎え、その後岡山を備前守へ進出して建城を成し、毛利方の備前守高松城を本拠にする事になる。

このように、「八浜の戦い」は「備前守高松城の戦い」の前哨戦であったことが、近年の研究で明らかになっています。今回はこの戦いの舞台となった城跡を取り上げ、その特徴を紹介する。

● 児島を代表する拠点城跡

④ 常山城跡

市指定史跡
【玉野市宇喜木・用吉・木目・岡山市南区迫川】

常山城跡は岡山・玉野市境にある常山（標高307m）山頂に位置し、全長380m、高さ300mを測ります。城には城主の上野氏をはじめ、毛利氏、宇喜多氏、小早川氏といった大名の自衛隊が代々入城しました。「八浜の戦い」の後、宇喜多氏に敵対する羽柴秀吉の当初の攻撃目標が常山城であったことから当時、岡城が尾道における毛利方の拠点であったようです。城は全長35mを測る長崎Tをはじめ、大型の曲輪により構成される複形式山城です。そしてこの城の特徴はこれら大型の曲輪群と、その周囲に築かれた石垣にあります。

城の最高所に全長50mを超える石垣を配し、その外周には自然石を積み上げた一帯面積が高さ2～5mの石垣が残っています。石垣に用いられる礫石は長さ20～50cmのものが主体ですが、主郭周囲のみ1mを超える礫石が部分的に用いられます。こうした大型の礫石は立石、あるいは鎌石と呼ばれ、安土桃山～江戸時代初期にかけての城に見られます。また主郭には多数の瓦が敷き詰められており、これらは宇喜多氏降参の際の岡山城の瓦と似た特徴を示します。城の北と東に続く曲輪群の間隔には高さ3～8mを測る切崖が見られ、部分的に高さ2m程度の石垣が残っています。これら急峻な石垣の採用は、江戸時代の城のように石垣化される以前の特徴を示しており、「八浜の戦い」の後、「備前守高松城の戦い」を経て、宇喜多氏の支配下にあった際に石垣葺きがなされたと考えられます。加えて、土塁をはじめとする大型の曲輪群に瓦葺き土塼が設置されるなどして政治拠点化したようです。



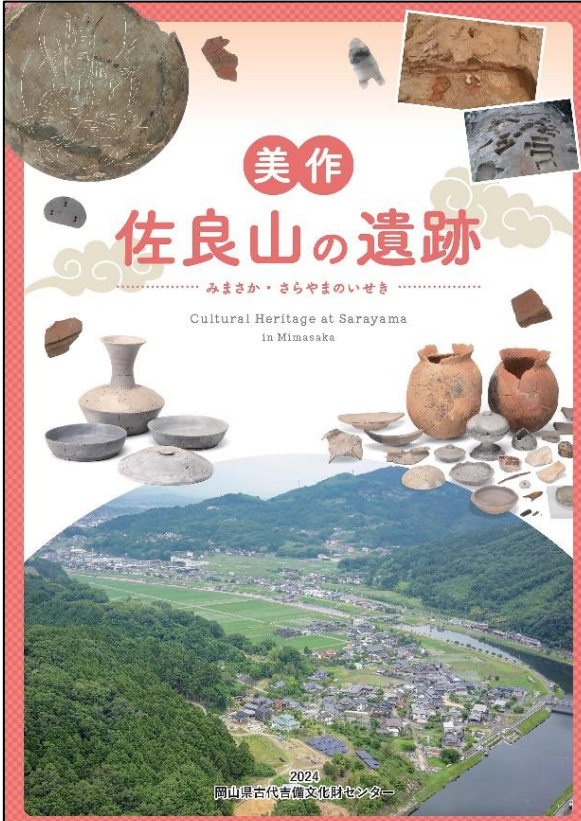
5

① 岡山の戦国争乱と城 第1巻「八浜の戦い」と城（表紙と内容例）

美作 佐良山の遺跡

みまさか・さらやまのいせき

Cultural Heritage at Sarayama in Mimasaka



2024 岡山県古代遺物文化財センター

住まいと暮らし

美作・佐良山の遺跡

佐良山地区では、弥生時代中期から室町時代にかけての集落遺跡が見つかっていて、長期にわたる居住のなかでも、古墳時代後期の高尾北ヤシキ遺跡は佐良山古墳群の運営に関わった人々の暮らし集落、室町時代の高尾宮ノ前遺跡は産地となったことが分かりました。

▲重なり合う集落（高尾北ヤシキ遺跡）
斜面を造成し、住まいの建て替えを繰り返しながら、弥生時代中期から室町時代まで人々が暮らしました。

▲壁際にカマドを造り付けた壁穴住居（高尾北ヤシキ遺跡）
古墳時代後期の壁穴住居21軒のうち、5軒にカマドが取り付けられており、新たな生活様式のもと暮らししていたようです。

▲暮らしの道具（高尾北ヤシキ遺跡）
集落での生活で使われた弥生時代から室町時代の道具。炊事で使う釜、味噌などの「壺」、飯椀、煎りや煮で使う鍋や「盆」の他に、鹿角、縄などが残っています。



3

② 美作・佐良山の遺跡（表紙と内容例）